

月と海豹

小川未明

青空文庫

北方の海は銀色に凍こおっていました。長い冬の間、太陽はめつたにそこへは顔を見せなかったのです。なぜなら、太陽は、陰気いんきなところは、好かなかったからでありました。そして、海は、ちようど死んだ魚の眼のようにどんよりと曇くもって、毎日雪が降ふっていました。

一疋ぴきの親の海豹あざらしが、氷ひょうざん山のいただきにうづくまって、ぼんやりとあたりを見まわしていました。その海豹は、やさしい心を持った海豹でありました。秋のはじめに、どこへか姿の見えなくなつた自分のいとしい子供のことを忘れずに、こうして、毎日あたりを見まわしているのです。

「どこへ行つたものだろう……今日も、まだ姿は見えない。」

海豹はこう思っていたのでありました。寒い風は、しきりなしに吹いていました。子供を失つた海豹は、何を見ても悲しくてなりませんでした。その時分は、青かった海の色が、いま銀色になっているのを見ても、また、体からだに降りかかる白雪を見ても、悲しみの心をそそつたのであります。

風は、ひゆう、ひゆうと音を立てて吹いていました。海豹はこの風に向かつて、訴うったえずにはいられなかつたのです。

「どこかで、私のかわいい子供の姿をお見になりませんでしたか。」と、あわれな海豹は、声を曇らしてたずねました。

いままで、傍ぼう若無じゃくぶじん人に吹いていた暴風ぼうふうは、こう海豹に問

いかけられると、ちよつとその叫びをとめました。

「海豹さん、あなたはなくなつた子供のことを思つて、毎日そこに、そうしてうづくまつていなさるのですか。私は、なんのためにいつまでも、あなたがじつとしていなさるのか分らなかつたのです。私はいま雪と戦つていたのでした。この海を雪がせんりよ占領するか、私が占領するか、ここしばらくは、命がけのきようそう競争きょうそうをしておるのですよ。さあ、私は、大抵たいていこのあたりの海の上は、一通りくま隈なく駆かけて見たのですが、海豹の子供を見ませんでした。氷の蔭かげにでも隠かくれて泣いているのかも知れませんが……」

「あなたは御親切な方です。いくらあなた達が、寒く冷たくても

私は、ここに我慢がまんをして待つていますから、どうか、この海の上を駆けめぐりなさる時に、私の子供が、親を探して泣いていたら、どうか私に知らせて下さい。私はどんなところであろうと、氷の山を飛び越して迎むかいに行きますから……。」と、海豹は、眼に涙をためて言いました。風は行く先を急ぎながらも顧かえりみて、

「しかし海豹さん。秋頃、漁船ぎよせんがこのあたりまで見えませんでしたか、その時人間に捕とられたなら、もはや帰りつこはありませんよ。もし、こんど私がよく探して来て見つからなかったら、あきらめなさい。」と、風は言い残して馳かけて行きました。

その後で海豹は、悲しそうな声を立てて啼ないたのです。

海豹は、毎日風の便りを待つていました。しかし、一度約束を

して行った風は、いくら待っても戻っては来なかったのです。

「あの風はどうしたろう……。…」

海豹は、こんどその風のことも気にかげずにはいられませんで
した。

後からも後からも、頻りなしに風は吹いていました。けれど同
じ風が二たび自分を吹くのを海豹は見ませんでした。

「もしもし、あなたはこれからどちらへお行きになるのですか：
……。…」

と、海豹はこの時、自分の前を過ぎる風に向かって問いかけたの
です。

「さあ、どこと言うことはできません。仲間が先へ行く後を、私

達はついて行くばかりなのですから……。」と、その風は答えました。

「ずっと先へ行った風に、私は頼たのんだことがあるのです。その返事を聞きたいと思つているのですが……。」と海豹は、悲しそうに言いました。

「そんならあなたとお約束した風は、まだ戻もどつては来ないのでしよう。私あがその風に遇あうか何どうか分らないが、遇あつたら言ことづ伝てをいたしましょう。」と言つて、その風も何処どこへとなく、去つてしまいました。

海は、灰はいいろ色いろに静かに眠つていました。そして、雪は風と戦つて、砕くだけたり飛んだりしていました。

こうしてじつとしていっているうちに、海豹はいつであつたか、月が自分の体を照らして、「さびしいか。」と言つてくれたことを思い出しました。その時、自分は空を仰いで、

「さびしくて、さびしくて仕方がない！」

と言つて、月に訴えたのでした。

すると、月は物思い顔にじつと自分を見ていたが、その儘黒い雲のうしろに隠れてしまったことを、海豹は思い出したのであります。

さびしい海豹は毎日毎夜、氷山のいただきにうづくまつて、我が子供のことを思い、風のたよりを待ち、また、月のことなどを思っていたのであります。

月は、決して海豹のことを忘れはしませんでした。太陽が、賑にぎやかな街をながめたり、花の咲く野原を楽しそうに見下ろして、旅をするのところがって、月は、いつもさびしい町や暗い海を見ながら旅をつづけたのです。そして、あわれな人間の生活の有様や、飢うえに啼ないているあわれな獣けだもの物などの姿をながめたのであります。子供をなくした親の海豹が、夜も眠らずに、氷山の上で悲かなみながら吼ほえているのを月がながめた時、この世の中の、沢たくさん山かなな悲しみに慣れてしまつて、さまで感じなかつた月も、心からかわいそうだと思いました。

あまりに、あたりの海は暗く、寒く、海豹の心を楽しませる何もなかつたからです。

「さびしいか？」と言って、僅かに月は声をかけてやりましたが、海豹は悲しい胸のうちを、空を仰いで訴えたのでした。

しかし、月は自分の力で、それを何う^どすることもできませんでした。

其の夜から、月はどうかして、このあわれな海豹をなぐさめてやりたいものと思いました。ある夜、月は灰色の海の上を見下ろしながら、あの海豹は、どうしたであろうと思ひ、空の路を急ぎつつあったのです。やはり風が寒く、雪は低く冰山を掠^{かす}めて飛んでいました。

果^{はた}して哀^{あわ}れな海豹は、其の夜も、冰山のいただきにうづくまつていました。

「さびしいか？」と月はやさしくたずねました。

この前よりも、海豹は幾分瘦せて見え^やました。そして、悲しもうに空を仰いで、

「さびしい！ まだ、私の子供は分りません。」と言って、月に訴えたのであります。

月は青白い顔で海豹を見ました。その光は、あわれな海豹の体を青白くいろどったのでした。

「私は世の中のどんなところも、見ないところはない。遠い国の面白い話をしてきかせようか？」と、月は海豹に言いました。

すると海豹は頭を振って、

「どうか、私の子供がどこにいるか、教えて下さい。見つけたら

知らしてくれろといつて約束した風は、まだ何んとも言つてきてくれません。世界中のことが分るなら、他のことはききたくありませんが、私の子供は、いまだどこに何うしてゐるか教えて下さい。」と、海豹は月に向かつて頼みました。

月はこの言葉をきくと、黙つてしまいました。何といつて答えていいか分らなかつたからです。それ程、世の中には海豹ばかりでなく、子供をなくしたり、さらわれたり、殺されたり、そのような悲しい事柄が、そこそこにあつて、一つ一つ覚えてはいられなかつたからでした。

「この北海の上ばかりでも、幾いくひき疋の子供をなくした海豹がいるか知れない。しかし、お前は、子供にやさしいから一倍悲しんで

いるのだ。そして、私は、それだからお前をかわいそうに思っている。そのうちに、お前をたのしませるものを持って来よう……」と月は言つて、また雲のうしろに隠れました。

月は海豹にした約束を決して忘れませんでした。あるばんがた晩方、南の方の野原で、若い男や女が、咲きみだれた花の中でふえ笛を吹き、太鼓たいこを鳴らして踊おどっていました。月は、この有様を空の上から見たのであります。

これ等らの男女は、いずれもぼくじん牧人でした。もうこの地方は暖かで、みんなは畑や田に出て、耕たがやさなければなりません。一日野良に出て働いて、夕暮になると、みんなは月の下でこうして踊り、その日のつかれ疲わすれを忘れるのであります。

男共は牛や羊を追って、月の下の霞んだ道を帰って行きました。女達は花の中で休んでいました。そして、そのうちに、花の香りに酔い、やわらかな風に吹かれて、うとうとと眠ってしまったものもありました。

この時、月は小さな太鼓が、草原の上に投げ出されてあるのを見て、これを、あわれな海豹に持って行ってやろうと思ったのです。

月が手を伸ばして太鼓を拾ったのを、誰も気付きませんでした。その夜、月は太鼓を負って、北の方へ旅をしました。

北の方の海は、依然^{いぜん}として銀色^{ぎんいろ}に凍^{こお}って、寒い風が吹いていました。そして海豹は、氷山の上にうずくまっていました。

「さあ約束のものを持って来た。」といって、月は太鼓を海豹に渡してやりました。

海豹は、その太鼓が気に入ったと見えます。月が、しばらく日の経^たった後に、このあたりの海上を照らした時は、氷が解けはじめ、海豹の鳴らしている太鼓の音が、波の間からきこえました。

青空文庫情報

底本：「小川未明童話集」新潮社

1951（正和26）年11月10日発行

1977（昭和52）年6月10日40刷

入力：鈴木

校正：小林繁雄

2011年12月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>)

で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテイアの皆さんです。

月と海豹

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>